



「私達の協同はすばらしい」



5年 島村 舞

私達の学校では、協同の時間と
いってクラスをこえて学年で活動
しています。課題は自給自足とい
って自分達でお米や野菜などを作
っています。また、自分達の課題
を達成するために、せい米、火お
こし、おしんこ、キムチ作り、み
そ作り、しょう油作り、豆腐作り
のグループに分かれて学習を進め
ています。

十一月には、ゲストティーチャ

みんなのひなび

「どうぶつの世界に大きな
ヒヨコがあらわれた!」

おはじきと和紙を使って、工夫
しました。



3年 加藤未佳

ーに来ていただき、キムチ、ぬか
すづけ、たくあん、白菜づけのわ
からない所を教えてくださいました。
お米グループでは、火をおこす
道具を木材で作ったり、ビンの中
に米を入れ、せい米したりしました。
みそ、しょう油、豆腐グループ
では、大豆を煮てつぶして、大豆
を使っていたいろいろな食品を作っ
ています。

十二月十九日には、畑に野菜を
しゅうかくに行きました。しゅう
かくした野菜の中の大根、かぶな
どは、校庭にあなをほって日もち
するようにしました。しゅうかく
した野菜は、個人面だんの時、百
円で、大根、かぶ、ちんげん菜、
サニーレタスなどを売りました。
これからの活動の目標は、ゲス

みんなのひなび



トティーチャーに教えてもらった
ことを基に、おいしいキムチなど
を作っていききたいです。また、自
分達のグループの活動とくらべてい
きたいです。さらに、大人になっ
て、もし、食料ぶそくになったら
小学校五年生の協同の時間に学習
したことを思い出して活用してい
きたいです。

協同の学習をしての感想「私は
この五年の協同はすばらしいと思
います。なぜかという昔の様に
みんな手作業だからです。今は機
械作業が主です。しかし、手作業
で作ったお米、野菜が、機械の物
よりおいしいからです。これから
もいろいろな活動にチャレンジし
て体験していきたいと思っています。

みんなのひなび

吉川の石塔と信仰

よしかわ

青面金剛像の庚申塔
（その三）



青面金剛像
（鍋小路もと不動院跡）

庚申塔は石面に「庚申塔」「庚
申」と文字を刻されたものだけで
はありません。吉川の北部は内川
神社から、南は道庭の千躰庚申塚
に至るまで多くの庚申塔が見られ
ます。もしかすると、この近辺で
は吉川市が庚申塔の最も多い地域
ではないでしょうか。

江戸の初期に新田開発が進めら
れ、下総（千葉県）からやって来
た人、あるいは旧利根川（中川）
を越えて来た多くの人が、この地
に来て開拓をしました。その時に
それぞれの地方の文化とともにこ
れらの民間信仰も伝えられたので
しょう。

そして、浮き彫りされた「青面
金剛尊」もこの地に伝えられまし
た。この庚申の主尊は青色の身体
をして身には六つの腕を持ち、忿
怒の相、左手に三股叉、棒、右手

みんなのひなび



に輪宝、絹索（不動明王も手に持
つ）や弓矢などを持ち、三つの目
牙を剥き出し、頭は髑髏あるいは
大蛇が巻き付いていて、足元には
夜叉が踏み付けられて何とも恐ろ
しい姿です。その両脇には鶏が
浮き彫りされていたり、下には三
猿が彫られています。中には、な
かなかユーモラスな猿を見ることが
できます。この猿は、元は山王
の神使（狐は稲荷の神使）であっ
て、いつか民間信仰の庚申の申
（さる）に通じ習合されてしまっ
たのでしょう。

話は変わりますが、千葉県の野
田市に行きますと、本市では見た
こともない大きな堂々とした庚申
塔を数多く見ることが出来ます。
このことは、二郷半の新田開発以
前の古い造塔（寛文から延宝年間
のそれ以前？）か財力を持った地
主層たちによるものなのでしょう
か。しかし、大きな庚申塔を造立
することは出来なくても、一生懸
命、農業などに勤しみ、信仰して
きた様子が、数多い塔の造立から
見る事が出来ます。
（来月から、地域の特徴ある庚申
塔について語ります。）

吉川市文化財専門調査員
平本 英夫